



病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します。

糖尿病対策センター「徳島県健康課題に挑戦する臨床・研究の推進」

糖尿病やメタボリックシンドローム(メタボ)はもはや国民病といえるほど多くの方々が抱え、あるいは予備群として危険にさらされています。さらにこれらの病気の状態が長く続くことが全身の血液の流れを悪くし、脳梗塞・心筋梗塞あるいは慢性腎臓病のような重い病気を含む様々な臓器の障害を引き起こしたり、ガンや認知症にかかるリスクを高めたり、ウィルスなどの感染症に対する抵抗力を弱めたりします。その結果、健康寿命と呼ばれる自立して生き活きと暮らすことのできる期間が短くなってしまうという深刻な事態が起きています。

徳島では長く糖尿病死亡率全国ワーストワンの状況が続いたため、その原因究明と対策の検討を進める事業を徳島大学病院が徳島県より受託し、平成19年に糖尿病対策センターが設置されました。糖尿病対策センターは平成20年以来およそ800人、平成22年以来およそ1400人の徳島県民の方々を毎年調査し、糖尿病やメタボが発症する仕組みを調べることで、これらの病気が起きる前にその危険性を知ることのできる新たな検査や、これらの病気につながる食事や運動といった生活習慣の解明に努めてきております。

その中で、脂肪細胞から分泌される血液中のアディポネクチンと呼ばれる物質があるレベルより下がると、外見上の肥満の有無とは関係なく4-5年以内にメタボあるいはその予備群になることが見つかりました。さらにこのアディポネクチンをご自宅や職場などの身近な場所で指先から自己採血で調べる仕組みも立上げ、徳島大学発のベンチャー企業であるメカノジェニック株式会社を通じて検査を実施できるようにしました。検査結果が芳しくない場合でも、数か月間生活習慣の改善に取り組むことで低下していたアディポネクチンが回復しやすいことも知られており、アディポネクチン検査の普及を通じて徳島のメタボ対策に貢献できればと願っております。

また生活習慣の調査においても、メタボになりやすい食習慣が明らかになりつつあり、どのような食品をどれくらいの量で組み合わせることがメタボ対策上望ましいかを点数化する作業を行っております。このような取り組みを、徳島県民フォーラムとして令和5年7月9日に皆様にご紹介しましたところ、「どこで検査ができるのか」「食事や運動についての情報はどこで手に入れることができるのか」といった声が多く寄せられており、健康を求める皆様の期待に沿った活動ができているものと確信いたしますとともに、その責任の重さも再認識しているところです。

大学病院では内分泌・代謝内科、アンチエイジング医療センターと連携し、糖尿病・肥満外来を担当し、生活習慣改善・薬物療法・減量代謝改善手術まで最先端治療を推進しております。今後さらに徳島県とも連携を深め、研究成果を糖尿病、メタボ対策にご活用いただき、徳島の皆様の健康寿命が日本一になるよう尽力できればと思います。

徳島大学病院 糖尿病対策センター センター長

松久宗英

徳島大学先端酵素学研究所糖尿病臨床・研究開発センター

客員教授 船木真理



糖尿病対策センターによる県民の方々の調査の風景



令和5年7月9日に開催された徳島県民フォーラムの様子

川人病院院長補佐(医歯連携担当)に、留学について寄稿いただきました。

留学ノススメ

病院院長補佐(医歯連携担当)を拝命しています歯科麻酔科の川人です。8月半ばに原稿を書いています。今年は記録的な暑い夏です。徳島でも35度以上の猛暑日が続いています。40度に到達した地域もあります。暑い暑い、ヒューストンの夏を思い出します。

私は1999年4月より2001年3月まで2年間、米国テキサス州ヒューストンのベイラー医科大学に留学させていただきました。ヒューストンは亜熱帯に属し、一年中のほとんどが夏で長袖の服を着ることはほとんどありません。屋外プールは一年中泳げます。日中炎天下に歩いていると警察に呼び止められ、「車で移動しなさい！」と怒られます。確かに、野良犬・野良猫はいませんが、野良リス・野良アルマジロが時々暑さで倒れています。子供が通っていた小学校では時々、緊急お迎え要請があります。「気温が110度を超えました。危険ですからすぐにお迎えに来てください。」「110度！！ああ、華氏(ファーレンハイト:°F)か。びっくりした。しかし、摂氏(セルシウス:°C)だと何度に当たるのかな？」電卓で計算すると、何と43°C・・・(絶句)。あわてて子供を迎えに行きました。

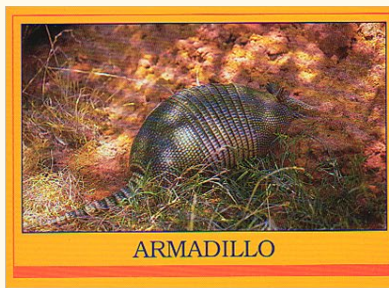
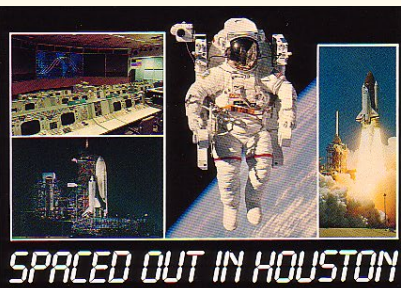
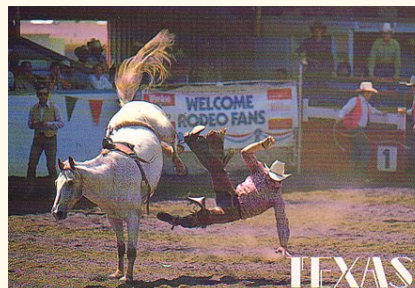
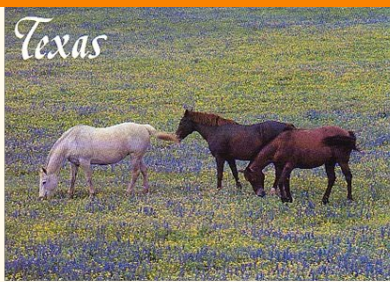
留学中は楽しかった思い出ばかりです。ボスに怒鳴られたり、マクドナルドのお姉さんに「はあ～？」と白い目で見られたり、バニラアイスクリームを注文したらバナナが1本、ワインを注文したらワラー(water)が1杯届いたり・・・くらいは平気です。私たち臨床医にとって、受け持ち患者さんがいない生活は初めてです。研究も成果を出さないと怒られますが、自由な時間は確実に増えます。

留学の良いところは、①人脈が広がる、②家族で過ごす時間が増える、の2点です。結果として③苦しいこともあるがそれ以上に得るものが多い、と思います。外国人医師や研究者と日々議論し、寝食を共にした(メキシカンの店でマルガリータを酌み交わした)こと、そして多くの知己を得ることができたことは何よりの収穫でした。コロナが落ち着いて、海外渡航の制限がなくなりました。チャンス到来です。皆さん海外に飛び出しましょう！

病院院長補佐(医歯連携担当)
川人 伸次

テキサスの象徴

(ロデオ、スペースセンター、西部劇のような広大な大地と豊かな自然)

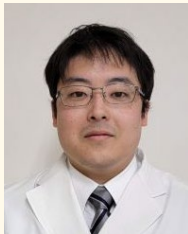


NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



小児科
佐藤宏紀医員



令和5年4月より赴任した小児科の佐藤宏紀と申します。
平成30年に徳島大学を卒業し、初期研修を経て当院の小児科に入局しました。当院で3年目、徳島赤十字病院で4、5年目を勤務したのち、再び当院で勤務させていただくこととなりました。大学病院には高い専門性が必要な疾患をもつ患者さんが多くおり、日々多くのことを学びながら業務をしています。
普段はNetflixを見て過ごすことが多いですが、今年度はキャンプやBBQなどアウトドアにも手を伸ばそうと思っています。
まだまだ未熟で至らぬ点が多々あるとは存じますが、何卒よろしくお願い致します。

卒後臨床研修センター
(歯科)
増田賢俊医員



令和5年4月より徳島大学病院歯科臨床研修医として勤務しております増田賢俊と申します。奈良県出身で令和5年3月に九州歯科大学を卒業し研修を開始しました。現在は総合歯科で研修を行っており、日々自身の未熟さを痛感しておりますが、指導医の先生方のご指導や患者さんの優しい言葉を励みに、学びながら充実した研修を行っております。
趣味は爬虫類の飼育で、試行錯誤しながら生物にとって最適な環境を作り上げていく感覚を楽しんでいます。
まだまだ未熟ではありますが、歯科医師として成長できるように日々精進して参りますので、よろしくおねがいします。

薬剤部
國木悠理香薬剤師



令和5年4月に薬剤部に入職し、調剤室に配属となりました、國木悠理香と申します。調剤室、注射薬補給室での業務の傍ら、新人研修の一環として、注射薬調製室にて研修を行っています。調剤室・注射薬補給室では、入院患者及び外来患者の内服薬・外用薬・注射薬の調剤業務のほか、薬剤管理業務に従事しています。また、今年度より新人教育プログラムに組み込まれた注射薬調製室での研修では、抗がん剤の無菌調製業務に携わっています。
趣味はバレーボールと、ライブに行くことです。特技は、料理と歌を歌うことです。休日は趣味を楽しみ、日々の業務とのメリハリをつけることを意識しています。
薬剤師としての未熟さを痛感する毎日ではありますが、徳島大学病院薬剤部のアンサングシンデレラを目指し、精進してまいりますので、今後ともご指導後ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

看護部西病棟10階
今出百香看護師



令和5年4月に入職し、西病棟10階に配属となりました、今出百香と申します。当病棟は、血液内科と小児科の混合病棟であり、大量化学療法や造血幹細胞移植などの治療を必要とする、白血病や悪性リンパ腫など、血液疾患の患者さんが入院されています。
わからないこともたくさんありますが、先輩方に優しく丁寧に指導をしていただき、日々患者さんとの関わりを大切にしながら、比較的長期入院となり、不安を抱えた患者さんにケアを行っています。目まぐるしい日々ですが、休みの日はドライブをしたり、ダンス動画を観たりして気分転換を図っています。
私の目標である優しく信頼される看護師を目指し、正しい知識と技術を習得し、患者さんに、安心して入院生活を送っていただけるよう努めたいと思います。まだまだ未熟ですが、チーム医療の中で看護師として役割が果たせるよう、日々精進して参りますのでよろしくお願いいたします。

総合臨床研究センター
鍛美智子技術員



5年4月より総合臨床研究センターに赴任いたしました、鍛美智子と申します。今までも経理調達課臨床研究支援係内で治験事務局の業務に係わっておりましたが、今年度より治験事務局専任として当センターに配属となりました。
治験事務局は主に治験実施の対応窓口や各種書類の作成・管理保管、委員会運営支援業務等を行っており、その設置が省令で定められております。被験者さんの権利と安全を第一に考え、新たな治療法や医薬品の開発に貢献できる誇りある業務に携わることができ、とても嬉しく思っております。
難解な治験が増えており、学ぶことも多い業務ですが、趣味のサッカー観戦や、推し活で気分転換しつつ、臨床研究コーディネーターの皆さんと協力しながら、データの精度と品質を確保するよう日々精進して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

